

# 説明的文章の読みを深める指導法の工夫

## — 基本読みから発展読みをととして —

### 目 次

I	テーマ設定の理由	53
II	研究の全体構造図	54
III	研究内容	55
1	説明的文章読みの指導の意義	55
2	基礎・基本をふまえた目標と内容	55
3	説明的文章の読みの指導	56
4	読みを深める作業化学習	57
IV	指導の実際	62
1	単元名	62
2	単元設定の理由	62
3	単元の目標	62
4	単元の観点別達成目標	63
5	教材名	64
6	教材について	64
7	指導計画	65
8	授業展開(1)	68
9	授業展開(2)	69
10	読解過程に位置づけた作業化の例	71
V	結果と考察	75
VI	今後の課題	75

宜野湾市立志真志小学校

石川 礼子

## 説明的文章の読みを深める指導法の工夫

### — 基本読みから発展読みをとおして —

宜野湾市立志真志小学校教諭 石川 礼子

#### 1 テーマ設定の理由

現代社会は情報化社会だといわれている。私達のまわりにも至る所に情報があふれている。その中で社会のニーズに合うように情報を取り入れ、処理する能力が要求される。そのためには、読み取る力をしっかり身につけさせる必要がある。「読む力」とは、書き手が述べようとしていることを正確に読み取ることであり、すべての学習の基礎として重要なものである。

また、今回改訂された新指導要領の国語科にも「これらの社会に主体的に対応できるように、目的や意図に応じて適切に表現する能力と相手の立場や考えを的確に理解する能力の育成」とあり、確かな理解力・確かな文章表現力の重要性が打ち出されている。

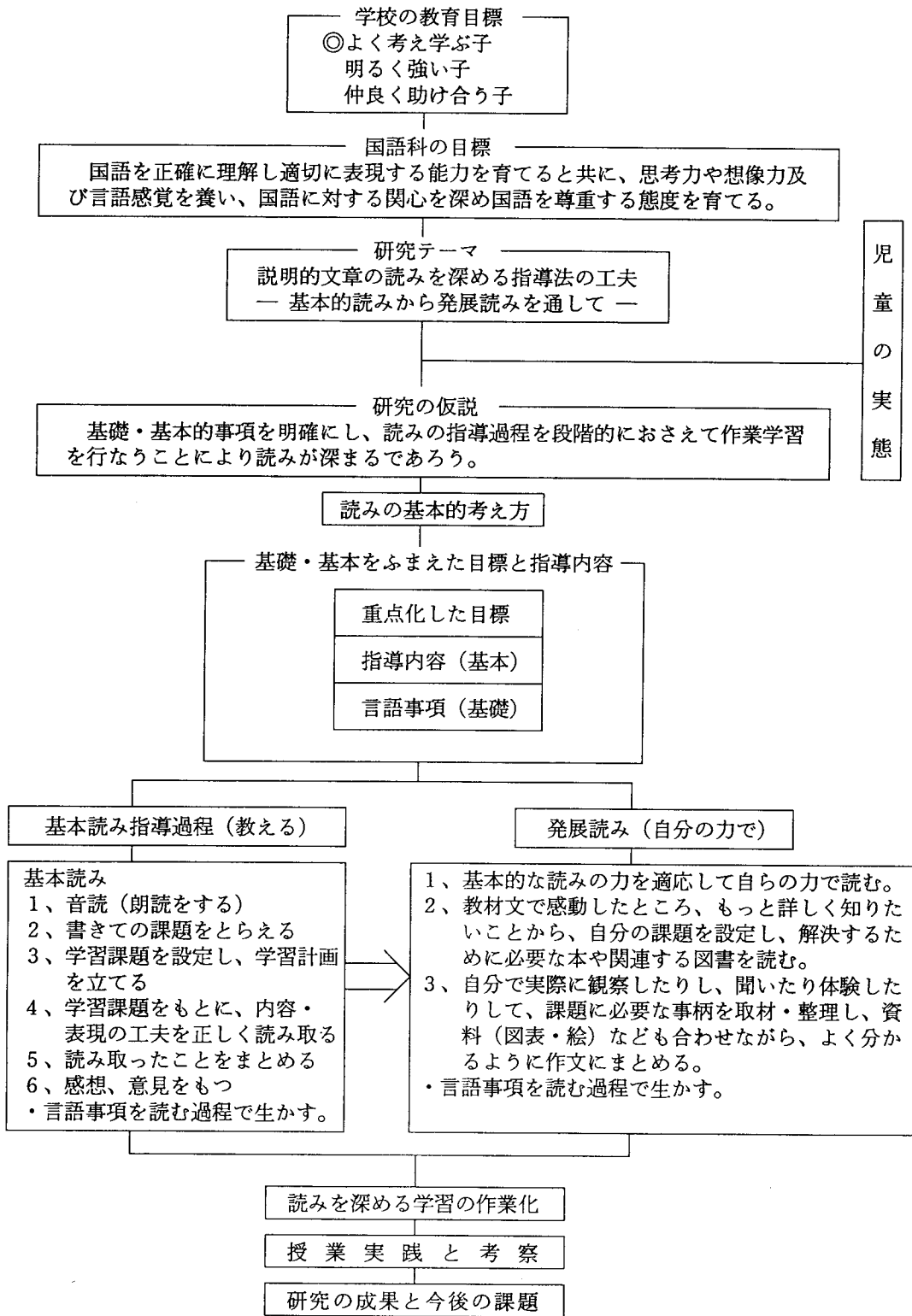
一学期に「イルカの会話」「ありの行列」の教材を扱った。三学年国語の目標に「内容の要点を正しく理解する」とあるが、説明的文章の要点を見つけることがとても困難であった。また、主語と述語の関係がよくとらえられていないため、「ありのようすをかんさつしました。」のように主語がない文がでてきたり、「問題提示」－「説明」－「答え」という文章構成や事柄と事柄の関係（段落構成）もはっきりせず、事柄を整理して読む学習が定着していなかった。その原因を考えてみると

1. 説明的文章の読みにおける指導内容が明確でなかった。
2. 説明的文章における指導事項が精選されていなかった。
3. 説明的文章を読み取るための、具体的手立ての工夫が足りなかった。

等があげられる。そこで、これまでの反省を生かし三年生の説明的文章で「基本読みから発展読み」の学習過程をとおして、内容を正確に読み取る力を身に付けさせたい。

そのためには、説明的文章の読みの指導にあたって①説明的文章の目標・指導内容を明確にする②説明的文章の読みの過程をおさえる。③作業学習を取り入れる。以上のことを行なうことにより、内容を正確に理解し説明的文章の読みを深めることができると考え、本テーマを設定した。

## II 研究の全体構造図



### III 研究内容

#### 1、説明的文章の読みの指導の意義

説明的文章とは、ある事柄について知りたいという読者の要求に答えるために、知識・情報を提供する目的をもって書かれた文章である。その特色として、書き手の筋道立った展開にのっとりて文章の表現がなされていることがあげられる。

子供たちの周りには、辞書や雑誌の解説文、そして教科書の説明的文章などがあり、それらを読むことで児童は、新しい知識を得、確認を深めながら実際の生活に生かし人間性を豊かにしている。

国語科のねらいは、言語の教育として、文章そのものの表現に着目し内容を読み取る技能を身につけ、自らの文章の場実際に生かす能力をつけることである。

そこで、説明的文章を読ますことにより知る喜びや驚きを感じとらせ、もっと知りたいという意識を湧かせることを大事にする。「知る」喜びや「おどろき」があるからこそ、読む楽しさにつながるのではないかと考える。知識や情報を求めると同時に、書き手の筋道立った見方や考え方にふれさせ、論理的思考を育てるようにする。そうすることにより、人間や自然の生き方について新しいものの見方や考え方を育てたい。

#### 2、基礎・基本をふまえた目標と内容

説明的文章の読みを進めるにあたっては、学習指導要領に示された基礎（言語事項）・基本（「理解」）をふまえて、指導の目標と内容を位置づけなければならない。

##### (1) 3年生理解の目標

内容の要点を押さえながら話を聞いたり、内容の要点を正しく理解しながら、文章を読んだりすることができるようにするとともに、いろいろな読み物を読もうとする態度を育てる。

##### (2) 内容（説明的文章に関するもの）

###### B理解

- イ 話の要点を聞き取り、自分の立場からまとめてみること。
- ウ 文章の内容が表されるように工夫して音読すること。
- エ 文章の要点を正しく理解しながら、内容を読み取ること。
- オ 文章の叙述に即して内容を正しく読み取ること。
- キ 聞いたり読んだりした内容について、感想をまとめたり自分ならどうするかなどについて考えたりすること。
- ク 自分の立場から大事だと思うことを落とさないで文章を読むこと。

理解の重点的目標

書き手の課題を見つけ、大事な事柄（要点）を読みとり、自分の立場からよく分かるようにまとめることができる。

具体化した指導内容  
（基本）

1. 課題を見つけることができる。
2. 課題をもとに、事柄ごとのまとまりを読み取ることができる。
3. 文と文のまとまりを考えてまとめることができる。
4. 大事な事柄（要点）を読み取ることができる。
5. 課題についての大事な事柄（答え）を自分でまとめることができる。
6. 読み取った内容について感想をまとめることができる。
7. 書かれている内容がよく分かるように、工夫して音読することができる。
8. 学習から発展させて、できるだけ多くの書物を読むことができる。

言語事項  
（基礎）

- 主語と述語との関係をはっきりさせる。
- 修飾語と被修飾語との関係をはっきりさせる。
- 指示語や接続語のはたらきを考える。
- 語句の役割や関わり方を考える。

### 3、説明的文章の読みの指導

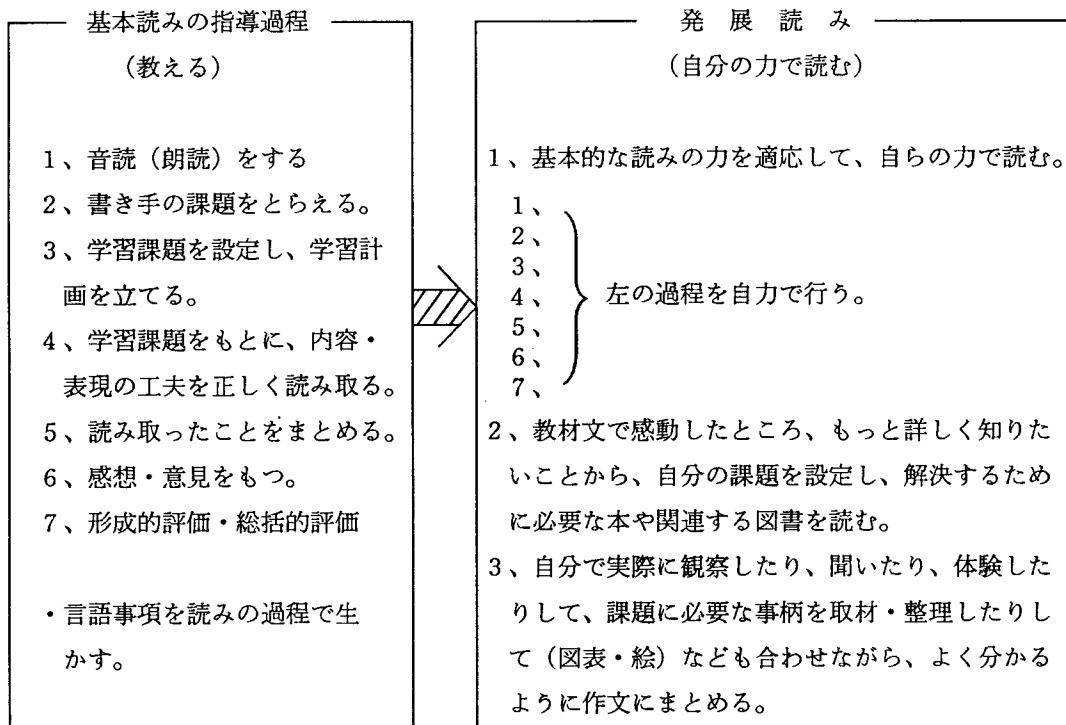
指導の方法としては、書かれている題材の理解を通して、知識・情報を正確に読み取らせる。その過程で、理論的思考力が培われるような指導の工夫が必要である。それには「なぜだろう」「ふしぎだ」という問題意識をもって教材文にたはらきかけ、その課題に向かって追究していく、自らの思考をはたらかせた主体的な読みをしなくてはならない。そこで、①教材文を音読する。②文中から書き手の課題をとらえる。③課題を設定し学習のみ通しをたてる。④課題をもとに内容・表現の工夫を正しく読みとる。⑤読みとったことをまとめる。⑥感想・意見をもつ。などのように子供たちが、文章を正確に読みとるための学習をもたせ、その課題を解決する学習活動を組むことが重要である。そうすることで、子供たちが楽しいと感じ、意欲的に取り組む読みを進めることができると考える。

さらに、課題を解決する中で身につけた読みの能力をより確かなものにするよう読みの過程において「基本読み」と「発展読み」の段階的学習活動を位置づける。まず、「基本読み」の段階においては、教師が中心となって授業を展開しねらうべき能力をつけてあげる。次に、基本的な読みの段階で得た能力を使って自分の力で学習を展開する。その中でつまづきがあれば、もう一度基本読みに立ちかえらせながら能力の強化を図る。子供一人ひとりが自由に読み進める（教師が意図する範囲内のものがある）「発展読み」の段階を位置づける。

このように、課題をもたせた読みを基本読みから発展読みを通して行い時、読みの力がより確

かなものとなり、読みが深まると考える。

指導過程の中では、具体化した内容が組入れられているように工夫し位置づけた。



#### 4、読みを深める作業化学習

##### (1) 作業化学習の意義

一時間の学習が話し合い中心の授業だと、限られた子供の活動で終始してしまうことがある。子供たちに意欲的な学習をさせるためには、読む、書く、話し合うという一連の学習活動をもたせると同時に、個に焦点をあてた「その子」なりの学習、つまり一人一人の読みを大事にする活動が必要である。その一方法として、学習の作業化があげられる。読む過程の学習、つまり、課題を解決する学習に作業化を取り入れることで、子供たちが容易に、しかも楽しく学習に参加することができ、またその読みを正確なものとすることができる。

説明的文章で読みを深めるということは、述べられている事柄を正確に理解することである。その内容を正確に理解するためには、課題を設定しその課題を解決するために作業学習を中心に進め、この学習を成立させることによって子供たちの読みを深めることができる。と考える。

読みの過程の中で作業化学習を取り入れる利点として次のことがあげられる。

- ① 内容を正しく読み取ったりまとめたりする中で、問題をはっきりさせ、学習の見通しをもつことができる。
- ② 一人一人の読みを大事にし、子供の経験、興味・関心などからの理解や想像を生かすことができる。
- ③ 言葉に対する関心や想像力がどのように豊かになってきたか、また一人一人の読みの能

力がどれくらい見についたかという学習の変容をとらえることができる。

- ④ 内容を正確に読み取っているか、それをどう表しているかなどの読みの力や表現力を確認し評価することで、指導の改善に生かすことができる。

## (2) 作業化の類別

作業の類別	作業の特質や効用
1、視写	大事なことを書くことにより正確に読む。
2、音読・朗読	声に出して読むことで、文章の内容を叙述に即して正しく読み取る。
3、ワークシート	形式を工夫しながら効率的で興味を持続した読みをする。
4、動作化	文章に書いてあることを追体験することで、内容を確認する。
5、絵画化	読み取ったことを絵に書かせることで楽しく内容を読み取る。
6、吹き出し	押し絵やノートに書くことで楽しく内容を読み取る。
7、サイドライン	大切な文や言葉に線を引きながら読むことで、叙述に即して読む。
8、カード	色を変えたり並べたりすることで楽しく分かりやすい読みにする。
9、図式化	読み取ったことを図にまとめることで、確認する。

## (3) 作業化の指導

### ① 書く作業を取り入れた指導

読みの過程で「書く作業」を取り入れることは、自分の考えを確かめたり、整理したりしながら読みを深めることになる。

「書く作業」の中で特に要点を書く作業では、書かれている内容を単に写しているのではなく、文章を自分に引きつけ、問題をはっきりさせながら読み、その読み取ったことを書くことで、さらに内容を正確に読み取り思考力を養うことができると考える。

そこで、内容を正確に読み取るためには、視写、絵画化、吹き出し、サイドライン、図式化など、「書く作業」の形式を工夫したワークシートを作成し、効率的で楽しく興味をもたせた読みにする。

ワークシートは、教材研究を深め、指導目標を明確にすることができ、また指導過程において確実な評価資料を得ることができる。そして、子供の立場からすれば①学習に変化をもたせ、学習意欲を持たせる。②書き込むなどの作業をすることにより、学習の成果が確かになる。③「どうよみとったらいいか」学習の仕方について理解できる。など、子供の実態を的確に把握し、次への指導に役立てたり、子供たちが意欲的に読み進めるための手だてとして活用する。

## ② 書く作業の内容（何を書くのか）

- 学習課題をもち学習計画を立てる。（見通す）
  - ・新しく習う漢字や読み替えの漢字などの練習や、重要語句の使い方などを書き込む。
  - ・内容を読み取るための学習課題を書く。
  - ・読みの課題や学習のしかたを話し合い、学習計画を書く。
- 学習課題を追究し、解決をめざす。（深める）
  - ・読みのねらいに即し、発問に対する応答の内容のなる部分、大事な事柄を書き出す。
  - ・読みながら考えて、分かったこと、思ったこと、調べてみたいこと（疑問、質問、意見）等を書き出す。
- 学習のまとめと発展をはかる。（広げる）
  - ・読みながら得た「その子」なりの解釈や想像を書き込む。
  - ・授業に関する自己の反省を書く。
  - ・感想をまとめたり、読み取ったことを音読、朗読する。
  - ・学んだことを生かして、一人学習を発展させる。

などがある。自分で考えた場合は鉛筆で、話し合いの場で明らかになった、改めた箇所の書き込みは赤とし、学習の成果をはっきりさせると効果的である。

## ③ 音読の指導

内容を読み取るとき、読み方が音読であれ、黙読であれ、読むという活動が円滑に行われなければ、内容が分かるという状況は生まれない。作品を読むということは、主題や筆者の考えをとらえるための過程である。文字、語句を読み、そして文脈を通して事柄を正しくとらえ、さらには文意を明らかにしていくのである。

教材文を音読する時、その子自身は自分のためにも読むが、みんなに聞いてもらいたいといった意識のもとに読む。そして、他の子供達は、それを聞いて教材の内容を思い描き、ことばの意味を理解することになる。また、音読することは単に聞き手に伝えるだけでなく、読み手自身が、自分の声を自分の耳で確かめながら文章を理解することになるのである。

そこで、読みの中で「指示語」「接続語」「文末表現」などのことばに注意しながら読ませたり、読み取ったことや筆者の一番言いたい事を音読させながら確かな読みにする。

## ④ 動作化

学習の中に動作を入れることで楽しい読みの学習が展開される。動作化をする場合は、動作化をすることが目的ではなく、文章を読み取るための一方法としてとらえ、常に表現に即して行い、動作化を通して、さらに細かく表現を見ていこうという方向で扱う。

## (4) 指導に生かす作業化の評価

作業化の学習は読みの過程で、音読・動作化・書く作業などを通して、子供たちの実態をとらえ変容を見ることが出来る。子供が読みとった能力の実態を正しく評価することは、自分の読みを確認し正確に読みとろうとする意欲へもつながると考える。

よって、書かれてある内容を正確に、しかも主体的に読みとらせるためには、指導の過程で一



人一人が、何が分かり、何が分からないのか、また何ができ、何ができないのか、その達成の過程をはっきりとらえなければならない。そのためには、何を分からせたいのか、また何をできるようにさせたいのか、指導のねらいをはっきりとすることが必要である。

そこで、指導のねらいについては、基礎・基本をふまえた目標、指導内容に基づいて「言語事項」「理解」の観点から、目標の達成を評価することにする。

① 評価の基準

「言語における知識・理解」においては、指示語の使い方、漢字の読み書きなど、達成度を客観的に数量化してとらえる。

- ・十分達成……………達成目標に対して80%以上達している。
- ・おおむね達成………達成目標に対して70%以上80%未満達している。
- ・達成不十分……………達成目標に対して70%未満しか達成していない。

「理解の能力」や「言語に関する知識・理解」については、その達成度が客観的にとらえにくいので、達成目標に対してどの程度達成しているか、その度合いをより具体的に文章に書き表示しておく。

観 点	達 成 目 標	十分達成 (A)	おおむね達成 (B)	達成不十分 (C)
言 語	○指示語、接続語の役割と使い方がわかる。	○指示語、接続語の使い方が、的確に正しく押さえられている。	○一部の指示語、接続語の使い方が正しくできない。	○指示語、接続語の正しい使い方が、ほとんど押さえられていない。
理 解 の	○行事の様子を想像して音読することができる。	○語句のまとまりや意味の切れ目を考えながら、他の文と会話文を区別して音読することができる。	○語句のまとまりや意味の切れ目を考え音読することができるが、他の文と会話文の区別が十分できていない。	○語句のまとまりや意味の切れ目を考え、他の文と会話文を区別しながら読むことができない。
能 力	○形式段落①②③の要点をまとめることができる。	○主語、述語をしっかり押さえ、まとめることができる。	○中心文を見つけて、筆者の考えをまとめることができる。	○筆者の考えの中心からずれて、部分的な捉え方をしている。

(2) 評価の方法

・感想分析表

感想分析表の利点

- ・初発の感想から指導に必要な事項を分析し、授業づくりを行うことができる。
- ・子供一人ひとりが教材についてどのように触れているかわかる。
- ・初発と読後の感想を比べることにより、学習後の子供の変容をとらえることができる。

(感想分析表例) (おにの話)

字 数 行	(初発)					氏 名  (男子)	(読後)					字 数 行	
	あ ら す じ	初 め て 知 っ た こ と	自 分 と 比 べ て	花 祭 り の お に	な ま は げ		節 分 の お に	あ ら す じ	初 め て 知 っ た こ と	自 分 と 比 べ て	花 祭 り の お に		な ま は げ
						1							
						2							
						3							

・座席表

個々の児童の読みを記録し、次時の学習で生かす。

(座席指導表) 例

内容の理解

音読

言語

要点をまとめる

K・J

十分に読み取っている。

R・M

読み取っているが、うまくまとめることができない。

Y・K

指示「それ」についてうまく表すことができない。

N・S

取りかかりが遅い  
内容の理解が不十分

I・M

接続後は理解し使うことができた。

N・O

読み取っているがはずかしくて動作化することができなかった。

( ) 月	( ) / 10 時	学習の目標	花まつりについて要点を読み取りおにと私達の生活との係わりを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分達成……………A</li> <li>・おおむね達成………B</li> <li>・達成不十分……………C</li> </ul>
----------	------------------	-------	------------------------------------	--

## IV 指導の実際

### 1、単元名 わけを考えながら

#### 2、単元設定の理由

##### (1) 単元について

この単元のねらいは、説明されている事柄についてそれぞれの要点を読み取り、初めて知ったこと、おもしろかったことなどについて感想を持つこと。そして、文中の指示語や接続語の役割と使い方に注意して読んだり、自分の表現活動に役立てる能力も培わなければならない。

「おにの話」は、各地に伝わる行事を取り上げている。「花祭り」「なまはげ」「節分」とも、行事の紹介、行事の様子、おにの役割という順序で構成されていて、おにの役割を観点にして、段落の要点をおさえることができる。指示語や接続語の使い方や文末表現の工夫にも気づかせ、発展教材の「自然のかくし絵」で、要点のまとめ方を確かなものにさらに、身近にあって昔から伝わるおにの話しなどを書かせて指導につなげたい。そこで、図書室の資料を広く活用させ、読書への関心を高めさせていきたい。

##### (2) 児童について

これまで、「イルカの会話」「ありの行列」で説明的文章の学習をしてきた。しかし、要点をうまくまとめることができなかつた。また、主語と述語の関係もはっきりとらえらたり基礎事項である指示語や接続語についての理解も十分ではない。

##### (3) 指導について

基本読みの段階では、劣っている要点の読みとりについて重点的に指導したい。また、文と文のつながりを考えて段落相互の関係をおさえ確かに読みとることができるようにしたい作文に書かせる題材については、身近な生活の中から、聞いたり、見たりしたことや図書館の参考資料の中から題材を見つけるようにする。そして、調べた事柄を教科書の構成をもとに、楽しく生き生きとした文章を書く体験をさせたい。

### 3、単元の目標

#### (1) 技能目標

- ① 説明されている行事について、それぞれの要点を読み取り、初めて知ったこと、おもしろかったことについて感想をもつことができる。
- ② 文中の指示語や接続語の役割と使い方に注意して、読んだり書いたりできるようにする。

#### (2) 価値目標

- ① おにの出ってくる行事や昔話などを調べ、要点をおさえて簡単な文を書くことで、昔から伝わる行事や人々の願いから生まれたならわしについて興味・関心をもつことができる。

4、単元の観点別達成目標

観点	目 標
表 現	<p>ウ 文章に書く必要のある事柄を選び整理してから書くこと。</p> <p>エ 事柄語との区切りや中心を考えてから文章を書くこと。</p> <p>オ 事柄と事柄の続きを考えながら、語と語や文と文との続き方に注意して文章を書くこと。</p> <p>カ 書こうとするものをよく観察してから書くこと。</p> <p>キ 自分の書いた文章を読み返して、間違いなどを直すこと。</p> <p>ク 聞いたり読んだりした内容から素材を見付け、その素材を使って表現してみること。</p> <p>ケ 正しく視写したり聴写したりして、いろいろな書き表し方があることに気づくこと。</p>
理 解	<p>イ 話の内容を聞き取り、自分の立場からまとめてみること。</p> <p>ウ 文章の内容が表されるように工夫して音読すること。</p> <p>エ 文章の要点を正しく理解しながら、内容を読みとること。</p> <p>オ 文章の叙述に即して内容を正しく読みとること。</p> <p>キ 聞いたり読んだりした内容について、感想をまとめたり自分ならどうするかなどについて考えたりすること。</p> <p>ク 自分の立場から大切だと思うことを落とさないで文章を読むこと。</p>
言 語 事 項	<p>イ (ア) 片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で適切に使うこと。</p> <p>(イ) 学年漢字配当表の第一学年から第三学年までに配当されている漢字を主としてそれらの漢字を読みその大体を書く。</p> <p>(ウ) 学習した漢字を文章の中で正しく使うようにすること。</p> <p>ウ (ア) 送りがなに注意して書き、また、活用について気付くこと。</p> <p>(イ) 読点の役割を理解し、必要な箇所読点を打ちながら文章を書くこと。</p> <p>(ウ) かぎ(「」)を適切に使うとともに、その他の主な符号についても使い方を理解すること。</p> <p>エ (イ) 語句には性質や役割の上で類別があることに気づくこと。</p> <p>オ (ア) 文の中における主語と述語との関係及び修飾と被修飾との関係を理解すること。</p> <p>(イ) 文や文章の中における指示語や接続語の役割と使い方に注意すること。</p>

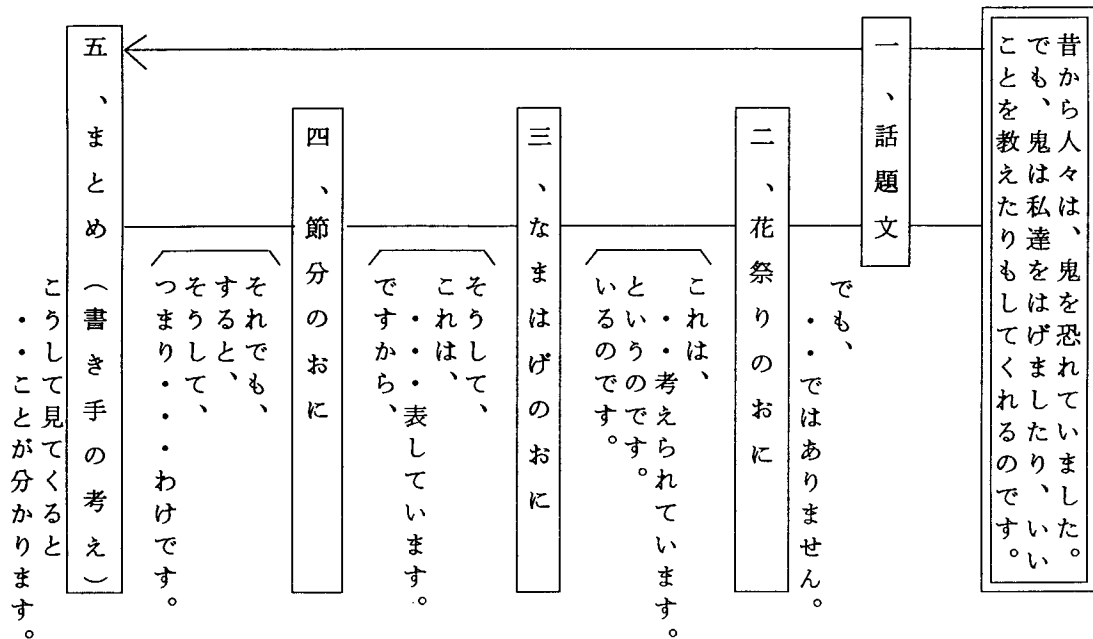
5、教材名 おにの話 (光村三年・上)

6、教材について

この教材は、

<構成図>

<まとめ> ————— <具体例> ————— <話題提示>



<表現上の特色>

話題提示とまとめの段階が呼応している、双括型の構成になっている。

文章の冒頭と結びに筆者の考えを述べ、中に三つの行事を例示している。

花祭り・なまはげ・節分の鬼について説明の仕方を比べると、次のような共通点がある。

- ・行事についての説明→行事の様子（特に鬼の様子）→「これは」という指示語で前の内容を受けて、鬼と私たちの生活とのかかわりについてまとめていること。

そのために要点の読み取りがしやすくなっている。

7、指導計画 (13 時間)

次	学習目標	学 習 活 動	評 価 計 画		
			理 解	言 語	
基 本 読 み	第 一 次 1 時 間	<p>◎単元を見通して学習意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の読みについて思い出す。</li> <li>・おにの出てくる話や自分の知っているおにについての思いを話し合う。</li> <li>・自分のもつイメージのおにの絵を書く。</li> <li>・新出漢字・読み替えの漢字の読み方を知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文の読みを思い出し、読む意欲をもつことができる。</li> <li>・教材に対する係わり方を診断的にとらえておくようにする。</li> </ul> <p>予想する話合いで、出てくる内容や疑問などで (観察) 言語イ 新出漢字・読みかえの漢字を読み大体を書く。</p>		
	第 二 次 1 時 間	<p>◎教材文を読み学習の課題をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の範読を聞く。</li> <li>・初めて知ったこと・おもしろかったこと・不思議に思ったこと・調べてみたいことなどをノートにまとめる。</li> <li>・一人ずつ感想を発表する。</li> <li>・感想をもとに、読み深めるための学習のめあてをたて、発表し合い学習の進め方の大体を決める。</li> <li>・全文を意味のまとまりごとに分ける。</li> </ul>	<p>イ 学習課題をもつことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて知ったこと、気が付いたこと、調べたことを書き出すことができるか。(ワークシート発表)</li> </ul> <p>エ 課題文から意味段落に分けてとらえることができる。(ワークシート)</p>	<p>オ(ア)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 主語 人々は おにが わたしたちは</li> <li>2 述語 おそれてきました 出てきます 遊びます</li> <li>3 接続語 「また」「でも」</li> <li>4 指示語 「これ」「それ」</li> </ol> <p>エ(イ) 文末 一ます 一わけで 一です 一のです 一分かります</p>	
	第 三 次 4 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・花祭りという行事を説明した文章の段落ごとの要点を読み取り、おにと私たちの生活との係わりを理解する。</li> </ul>	<p>◎花祭りのおにについて詳しく読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のめあてを確認する。</li> <li>・花祭りのおにを読む。</li> <li>・花祭りの説明の内容を理解し、要点を読み取る。</li> <li>・本時のまとめをする。</li> </ul>	<p>エ 花祭りのおにについて読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、内容、役割に分けて書き表すことができるか。(ワークシート・発表)</li> </ul> <p>ウ 工夫して音読すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の内容を動作をもって表現できるか。(動作化・観察)</li> </ul> <p>イ 各段落の要点をまとめることができる。</p>	<p>オ(イ) 言葉の意味を考えたり、文中から指し示す言葉を探せるか。 「これ」 「それ」</p> <p>エ(イ) 文末表現の違いから使い方を考える。 「いのです」 「いるのです」</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なまはげという行事を説明した文章の段落ごとの要点を読み取り、おにと私たちの生活との係わりを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎なまはげのおにについて詳しく読み取る。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> <li>・なまはげのおにを読む。</li> <li>・なまはげの説明の内容を理解し要点を読み取る。</li> </ul>	<p>オ なまはげのおにについて読み取ることができる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、内容、役割に分けて書き表すことができるか。(ワークシート)</li> </ul> <p>ウ 工夫して音読すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の内容を動作をもって表現できるか。(観察)</li> </ul> <p>イ 各段落の要点をまとめることができる。(ワークシート)</p>	<p>オ(イ) 文中から指し示す言葉を探せるか。</p> <p>「これ」 「それ」</p> <p>接続語 「そうして」 「ですから」</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節分という行事を説明した文章の段落ごとの要点を読み取りおにと私たちの生活との係わりを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎節分のおにについて詳しく読み取る。</li> <li>・本時のめあてを確認する。</li> <li>・節分のおにを読む。</li> <li>・節分のおにの説明の内容を理解し要点を読み取る。</li> </ul>	<p>オ 節分のおにについて読み取ることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、内容、役割に分けて書き表すことができる。(ワークシート)</li> </ul> <p>ウ 工夫して音読すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の内容を動作をもって表現できる。(観察)</li> </ul> <p>イ 各段落の要点をまとめることができる。(ワークシート)</p>	<p>オ(イ) 文中から指し示す言葉、つなぐ言葉を探せるか。</p> <p>指示語 「それ」</p> <p>接続語 「それでも」 「すると」 「これは」 「出てくることがあります」</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要点をまとめた文を基におにと私たちの生活との係わりを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おにの話」の説明文の全体の組み立てを理解し、本時の学習のねらいがわかる。</li> <li>・文章全体の構成についてまとめさせる。</li> <li>・おにの話の学習をして自分のおにのイメージがどうか変わったか「感想」に書く。</li> </ul>	理 解	
			<p>オ まとめた文を読み、書き手の考えについて知ることができる。</p> <p>エ 要点をまとめることができる。</p> <p>イ 要点を書いた短冊を使って文章構成ができる。(ワークシート)</p>	
第 四 次 1 時 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語と指示語の役割を理解し、文中で注意して使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続語や指示語を集めさせ発表させる。</li> <li>・接続語や指示語のはたらきについて理解させる。</li> <li>・接続語や指示語を文中で使い練習をさせる。</li> </ul>	言 語	
			<p>オ(イ) 文中から指し示す言葉、つなぐ言葉を注意して使う。</p> <p>接続語 「また」 「それでも」 「つまり」 「でも」 「ところが」 「または」 「そうして」 「ですから」 「すると」</p> <p>指示語 「この」 「これ」 「これは」 「その」 「それ」 「それは」 (ワークシート)</p>	

発 展 読 み 第 六 次 3 時 間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然のかくし絵を読んで課題をつかむ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読み課題を持つ。</li> <li>・感想をノートにまとめる。</li> </ul>	イ 学習課題をもつことができる。 (ワークシート)	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほご色とはどんな色で、こん虫は、どういうふうにいるか理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の①～③の段落を落を詳しく読み取る。</li> <li>・発表したことをみんなでまとめる</li> </ul>	ウ 工夫して音読することができる。(観察)  イ 各段落の要点をまとめることができる。 (ワークシート・発表)	オ(イ) 文中でつなぐ言葉を適切に使うことができる。 「このように」 「それに」 「ですから」 「ところが」
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほご色によって身を守っているこん虫について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文④～⑨の段落を詳しく読み取る。</li> <li>・発表したことをみんなでまとめる</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言い伝えや昔話について調べ。(ワークシート)</li> <li>・調べてメモに取ったことを発表し合う。(発表)</li> <li>・友達の発表したことを基に、取材の良いところや不足しているところはないか話し合う。</li> <li>・自分が集めた材料を読み返し、良い材料を選んだり足りない材料を書き加えたりする。ワークシート</li> </ul>	理 解	言 語	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた事柄を基に、教科書の構成を参考にして、作文の構想を立てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の文型を基に、作文の組み立てについて考え、話し合う。</li> <li>・教科書の組立を参考にして、自分の作文の組立を考える。</li> <li>・友達の組み立て表についての発表を聞き自分の構成を見直す。</li> <li>・取材メモや組み立て表を基に、自分が調べたことを書く。</li> </ul>	イ 自分の立場からまとめることができる。 (ワークシート)	イ 習った漢字を正しく書くことができる  オー(ア) 主語・述語との関係に気をつけて使うことができる。  オー(イ) 文中で、指し示す言葉・つなぐ言葉を適切に使うことができる。 (ワークシート)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の作文を基に調べたこと発表し、昔話についての理解を広げたり、深めたりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方を確認し発表する。</li> <li>・友達や自分の発表の評価を行い感想を話し合う。</li> </ul>	ウ 文章の内容がよく表されるように工夫して音読することができる。 (発表)	





9、授業展開(2)・・・第五時・第2次の授業展開(9/13) 検証授業

- (1) 本時のねらい  
 ・保護色とはどんなもので、保護色によってこん虫はどんなふうに身をかくしているのだろうか。
- (2) 本時の展開

	具体目標	学習活動	指導上の留意点	作業化
導入 (5分) ↓ 展開 (30分) ↓ まとめ (10分)	1、前時の学習を思い出すことができる。 2、本時の学習課題がわかる。 今日のためて ほご色とはどんなもので、ほご色によってこん虫はどのようなふうに身を隠しているだろうか。 3、①～③の段落の場面を詳しく読むことができる。 4、①～③の段落の要点を自分の力でまとめることができる。 5、発表し合い要点をみんなでもとめることができる。 6、まとめた事を音読することができる。 7、次時の学習を確認することができる。	1、前時の学習を想起し説明文の学習の手順を確認する。 2、本時の学習課題を確認する。 3、課題を考えながら読む。 ・群読 4、①～③の段落の要点をかく。 5、読み取ったことを発表する。 6、音読によって本時の学習を確かめる。 7、次時の予告 ④～⑨の段落の要点をまとめて書く。	1、・学習のめあてを思い起こさせて学習のつながりをもたせる。 2、・学習範囲を確かめさせる。 3、・内容がよく分かるように句読点に気をつけ、はっきりした声で群読させる。 4、・要点のまとめ方の確認をする。 ・「このように」「それに」「ですから」などの接続語に気をつけて要点をまとめる。 ・発表を聞いて間違いを直したり、書き足りない箇所などは赤ペンで記入する。 ・座席指導演に学習活動をチェックし、できない子へヒントカードを与える。 5、・①～③の要点をもとにして説明に必要な語句をおぎなったりして全体をまとめさせる。 6、・課題についてどのように読み取ったかまとめさせる。 7、・④～⑨の要点をワークシートに一人学習でまとめておくように知らせる。	・音読 ・ <u>サイドライン</u> をもとにまとめる。 ・ <u>ワークシート</u> に必要なところを抜粋してまとめる。 ・ <u>ワークシート</u> に話し合ったことをまとめる。 ・読み取ったことを音読する。

(3) 本時の評価

十分達成 (A) ・ ・ ・ ・ 保護色や擬態色によってこん虫はどのように身をかくしているのかを的確にまとめることができる。  
おおむね達成 (B) ・ ・ ・ ・ 保護色について理解はできているが、その擬態色をまとめることができない。  
達成不十分 (C) ・ ・ ・ ・ 保護色やこん虫の身のかくし方についてまとめることが不十分である。

(4) 授業後の反省

① 授業者の反省

- ・ 授業に対する子ども達の反応について不安があったが、思ったより子ども達は学習内容を把握し取り組みもよかった。
- ・ 授業の流れは、児童が自力で文章を読み→要点を見つけ→線を入れ→書き込み→話し合い→まとめる、といった学習内容を設定した。しかし、書き込む作業に手間取り、本時の学習のポイントである「話し合い活動」を十分にできなかった。今後は、文章を書いたり視写したりする指導を計画的に行いたい。

② 指導助言

〈 よい点 〉

- ・ 児童は授業態度もよく、落ちついて学習に取り組んでいた。
- ・ 群読するときも大きな声で元気がよかった。
- ・ 教室掲示の鬼の絵など、それぞれの子どもの個性がでてよかった。
- ・ 発表時のサインなど多くの子どもに発表の機会を与える工夫や、子ども達とのやりとりの中で学級経営を頑張っている様子がわかった。
- ・ 要点のまとめ方を表にしたり、教材文を拡大して掲示するなど学習内容が分かりやすかった。

〈 改めたい点 〉

- ・ ワークシートの形式を変えたり、絵を入れたりともっと工夫してはどうか。
- ・ 要点を見つけ線を引くとき、サイドラインを引いて残すのか、線で消去するのかを検討してほしい。
- ・ 机間巡視ではつまづきのある子に対する指導や全体の実態把握などがあるが、視点ははっきりさせていると効果的に指導に生かせる。

子どもの声

- ・ 今日はたくさんの先生方がきたので緊張したけど、発表できたのでうれしかった。
- ・ 手を上げたけど発表できなかったの、次はぜったいがんばります。
- ・ 「自然のかくし絵」は、初めて勉強するのでとても難しかった。でも、2の段落で主語を見つけて短い文にしたら先生にほめられた。









おにムーチの話

ぼくたちは、国語の勉強で、おきなわに、おにがいるのかなというのを調べました。おきなわには、おにムーチーという行事があります。

おにムーチーという行事は、きょうれぎ十二月八日にやるそうです。

むかし、らんぼう者の兄がいて、妹は毎日兄がふつうの人間になるようにいのっていました。けれど、兄はますますらんぼうになるばかりでした。

そこで妹は、このままではいけないと思って兄の大好きなムーチーを作りました。その中に、鉄くぎをいれていました。そして、兄に食べさせてたいじしました。

おにたいじは、きょうれぎの十二月八日のことでした。

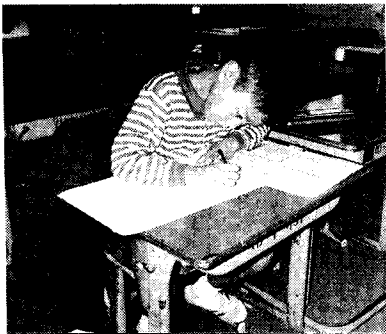
おきなわでは、今でもその日になると、サンニンの葉でつつんだムーチーを作ります。ムーチーには、白、赤、茶色があります。

B-2

作り方は、もち粉にさとうと水をくわえて、こねます。そして、耳たぶくらいのをやわらかくして、形をととのえます。大きさは、はば五センチ、長さ十二センチです。できたムーチーをサンニンの葉でつつんで、むしでぎあがりです。また、年の数だけつるすそうです。

これは、子どもたちのけんこうをいのつてする行事です。

こおして見ると、おきなわにもおにの行事があることがわかりました。また、この行事は、人々の役にたっている事がわかりました。



## V 結果と考察

これまでの研究では、説明的文章の指導の意義を明らかにし、読む力を習得させるために学習指導要領で示された目標や内容にしたがって指導事項を精選した。そして、検証授業では三年生の説明的文章の読みでおさえるべき基礎的・基本的内容をふまえて、基本読みから発展読みに位置づけ、その過程に学習の作業化を取り入れた。その結果、

- 1、説明的文章の指導内容と指導過程が明らかになった。
- 2、課題を設定し学習計画を立てることで、学習する内容や順序が分かり、主体的な読みの姿勢が出てきた。

初発の感想から教師と児童が話し合うなかでめあてをつくり、それをもとに学習の計画を立てた。

- 3、主語・述語の関係をとらえながら要点をまとめ、大事な事柄を読みとることができるようになった。
- 4、学習活動の中に作業化を取り入れることで、児童が生き生きと活動し、読み取りも確かなものになってきた。

読み取ったことを、絵に描いたり動作化することで児童は喜んで取り組んでいた。また、要点をワークシートにまとめさせることによって、一人一人の読みを確かめることができた。

- 5、課題解決のために図書館を利用し調べたり、周りの人から聞いたりするなど、児童が自主的に活動する場面が増えてきた。

内容を正確に読みとらせるためには、接続語や指示語を明確におさえることも大切である。その役割や使い方をしっかりと定着させ、文と文のつながりや文章全体の組立を理解していく力をつけさせたい。今回は基本読みに時間がかかり、読みとったことを作文にしたり、発表する時間を充分にとることができなかった。これからは、読み取ったことを書くことによって深め、定着を図る指導を年間指導計画に位置づけていきたい。

## VI 今後の課題

説明的文章読みを深めるためには、①文章を正しく読み取るためのワークシートの内容や提示の工夫と指導法の研究と、②「読み」「書き」の関連指導についての研究を今後深めていきたい。

最後にこれまで研修テーマの推進にあたって、本研究所所長嘉手苅先生、伊波先生、中頭教育事務所の諸喜田先生、宜野湾教育委員会の先生方にご指導、ご助言を承り厚く御礼を申し上げます。

<主な参考文献・資料>

市毛勝雄著	「説明文の読み方・書き方」	明治図書	1985
石田佐久馬編	「作業を生かした国語授業の活性化」	東洋館出版	1990
石田佐久馬編	「説明文でなにをどう学ばせるか」	東洋館出版	1990
本堂寛・熱海則夫編著	「小学校観点別達成度評価を生かした授業実践」	図書文化	1984
藤原宏・栗岩英雄編集	「国語科授業研究3・4学年」	きょうせい	1984
飛驒多喜雄・国語教育実践理論の会編著	「読む力を伸ばす新読解指導法の開発」	明治図書	1986
沖縄県立教育センター集録教第65号	「説明的文章の読みの指導中学年」		